

奥会津・山間地域の 自律分散型アーカイブと課題

榎本千賀子（新潟大学）

2024年11月2日 デジタルアーカイブ学会第9回研究大会

奥会津デジタルアーカイブ

福島県7町村からなる過疎高齢化地域

- 柳津町・三島町・金山町・昭和村・只見町・南会津町・檜枝岐村
- 人口約4万8千人（1980）→約2万7千人（2023）
40年間で半減にせまる勢いで減少
- 65歳以上割合45.6%（2020）
(参考) 福島県全体31.8%（2020）

自然環境と歴史的・文化的なつながり

- 1000～2000m級の山々に囲まれた中山間地
- 日本有数の豪雪地帯
- 旧南山御蔵入領におおよそ一致
- 戦後は阿賀野川水系の電源地として開発される

90年代から続く地域連携をもとに運営

- 只見川電源流域振興協議会
柳津町・三島町・金山町・昭和村・只見町・南会津町・檜枝岐村
- 電源立地地域対策交付金が財源

神奈川県とほぼ同面積



奥会津デジタルアーカイブの背景

- **公的な地域文化資源管理制度の脆弱性**

学芸員等の専門職員不在町村が複数存在

地域資料の保存・展示施設が存在しない町村も

- **地域コミュニティの地域文化資源保存・継承機能の低下**

担い手となる住民の減少・高齢化

各種地域組織の活動中止・解散



地域文化資源の管理能力をいかに維持・向上するか？

「奥会津ミュージアム」事業と「奥会津デジタルアーカイブ」構築

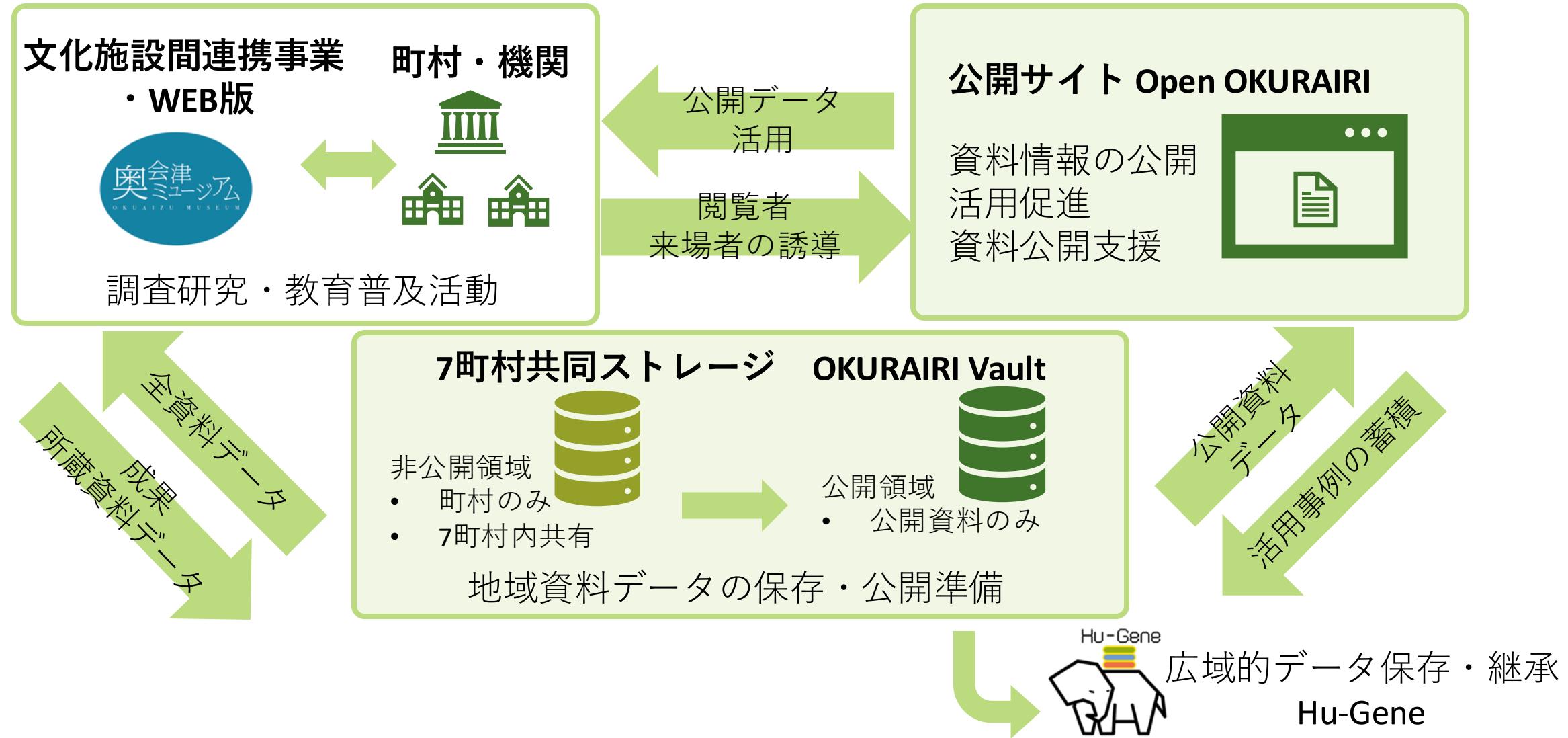
「奥会津ミュージアム」事業と奥会津DA



奥会津DAの使命
奥会津を記録する・結ぶ・ひらく

- **共同データストレージの運用**
地域資料データの保存・継承
担当者間でのデータ共有
- **奥会津DA Open OKURAIRI**
地域資料の公開・活用
- **各町村・参加館への活動支援**

奥会津デジタルアーカイブ 概要



公開サイト

「奥会津デジタルアーカイブOpen OKURAIRI」



目標

奥会津の地域文化資源を〈つなぐ〉〈ひらく〉場の創出

現状

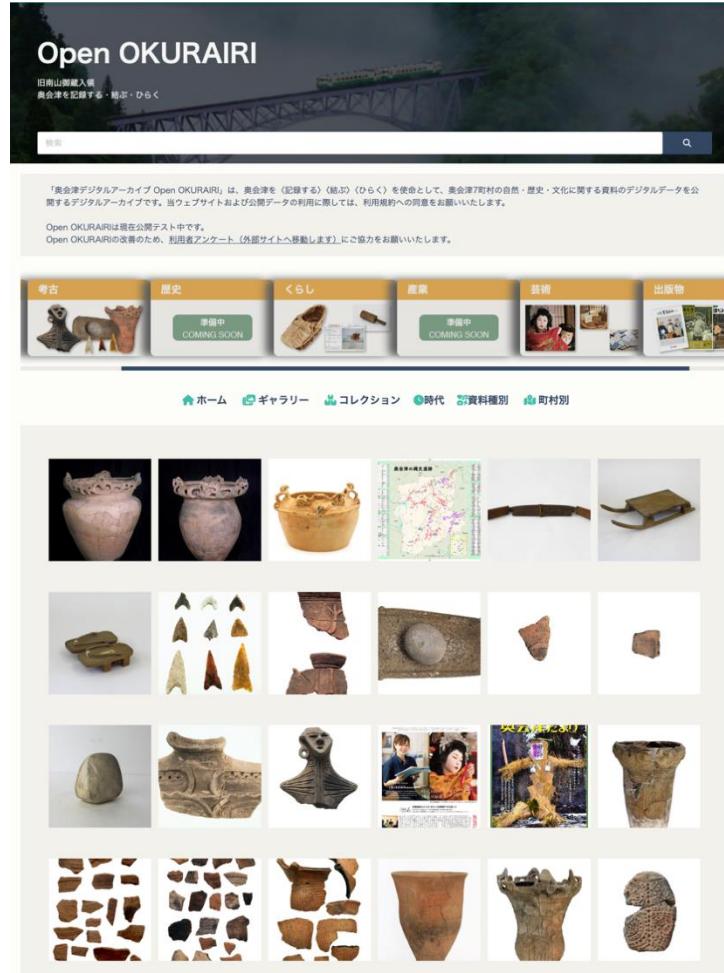
- Omeka Sを用いて構築
- 2024年7月19日よりβ版公開開始
- 考古・民俗・広報誌など1439点（2024年10月31日現在）を公開
- **自治体連携型DAの利点の積極的な追求には至っていない**
- アクセス数・活用事例ともにまだ少数（9～10月：PV2519, DL32）
- 地域住民・各町村による主体的なDAサイト活用の動きは少数

課題と対処法

- DAサイトの地域内外における認知度向上
- DAサイト存在意義の浸透

→地域内：リアルでの周知の徹底・関連サイトとのリンク
→地域外：ジャパンサーチとの連携など他地域DAとの連携
→奥会津7町資料間の相互関連性を活かしたサイトデザイン
→DAサイトのリアルな場での積極的活用

奥会津デジタルアーカイブOpen OKURAIRI



人体像把手付土器

Share X ポスト @ 保存 t Post

1 / 10

タイトル
人体像把手付土器

よみ方・別名
じんたいぞうとてつきどき

資源識別子/Identifier
00-2024-001-00014

町村
柳津町

所蔵・公開者
柳津町教育委員会

作者・著者
不明

寄与者/Contributor
撮影: 柳津町教育委員会

利用条件
[CC BY \(表示\)](#)

タグ
奥会津の縄文
土器
土偶
おすすめ
池ノ尻遺跡

カテゴリ
考古

時代
縄文時代

時期
縄文時代（中期）

作成日/Date Created
不明

アイテムセット 奥会津の縄文

共同ストレージ「OKURAIRI Vault」



目標	奥会津の地域文化資源を〈つなぐ〉〈記録する〉基盤の整備
現状	<ul style="list-style-type: none">Open OKURAIRI公開中データの収集・保存開始地域横断型データ共有基盤「Hu-Gene」に参加によるデータ保存・継承機能の強化Open OKURAIRI公開中データの「Hu-Gene」へのミラーリング開始積極的な活用の動きは現時点では少数
課題と対処法	<ul style="list-style-type: none">データ集約・保存意義の浸透OKURAIRI Vaultの信頼性確立<ul style="list-style-type: none">→公開データ蓄積・活用経験の積み上げ→各町村資料データ管理に関する過去の問題事例の共有→限定公開／非公開データの取扱いルール整備→責任の所在・範囲を明らかにするための同意書づくり

地域資料デジタル化・データ活用



目標

奥会津の地域文化資源を〈記録する〉持続可能な体制づくり

現状

- ・「奥会津ミュージアム」7町村文化施設間連携展をもとにした基本的なデータ追加スケジュールの提示
- ・取り残される町村を出さないデータ追加の見通しが得られた
- ・「奥会津ミュージアム」成果の継続的な蓄積の見通しが得られた
- ・**奥会津DA準備室の主導による活動が中心**
- ・地域内における主体的・持続的なDA活動の動きは少数

課題と対処法

- ・**地域内における主体的・持続的なDA活動の確立**
→モデル的DA活動の提示
特に未整理資料等の整理・活用へのDA利用
→負担軽減・効率化に留意した
資料デジタル化・公開スキーマの開発・共有
→共有可能性を考慮しないデータ作成方法の見直し

展望と課題

過疎・高齢化地域における自治体連携型地域デジタルアーカイブの可能性

- 地域デジタルアーカイブ活動を効率的に実現するための現実的な選択肢のひとつ
- 垂直的補完が不足している地域にとっての有効な選択肢となりうる

ただし、以下の検討が必要

- 連携を可能とする地域的結びつきや活動蓄積の有無
- DA構築を支える財源の確保
- ファシリテーションを担う人・組織の有無

過疎・高齢化地域における自治体連携型地域デジタルアーカイブの課題

- 予算、人員、知識・ノウハウの不足は緩和されるが解消されない
 - 省力化・効率化は必須
 - DAの意義と方法を具体的に提示すこと、関係者が経験することが重要ではないか

課題を乗り越えるために

- 省力化・効率化
→まずは資料公開にたどり着くことが重要
- 既存の地域文化資源管理業務とDA活動の結合
→担当者の「既存業務 + DA業務」という負担感を軽減する
- 価値の定まった地域資料の公開の場としての地域DAから
価値の創造の場としての地域DAへの転換による意義の実感へ
=奥会津DAを未整理資料の整理・活用プラットフォームへ

モデル事例： 弥平民具（金山町）

1950年代	栗城弥平氏による収集開始
1980年代	住民組織・玉梨民具保存会結成
1990年代	整理・展示室整備終了 →次第に活用機会が失われる 一部資料の虫害も発生
2024年	町による再整理事業開始 →奥会津DA上で整理過程公開へ

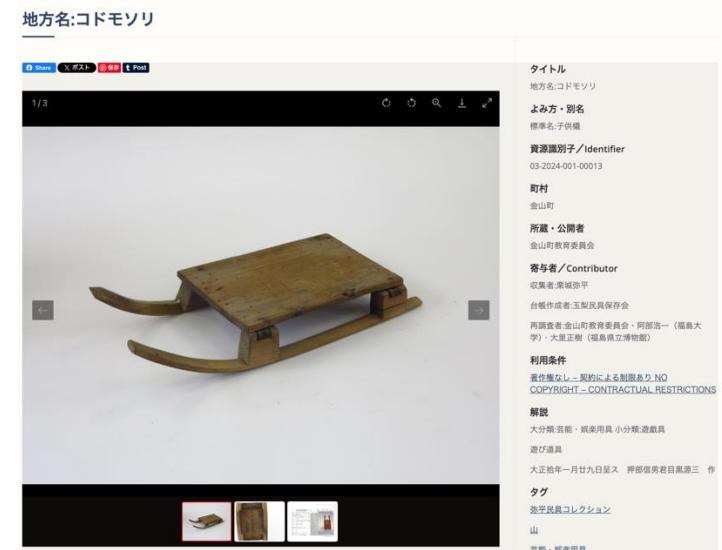


DA上で資料整理過程公開により

- 資料に関心を持つ人を増やす
- 整理活動参加者の「やりがい」となる
- 価値の定まった地域資料の公開の場としての
地域DAから価値の創造の場としての地域DAへ

奥会津DA上での整理状況

- 2024年2月 第1回町民参加ワークショップ実施
合同会社AMANEによる3Dデータ撮影
- 2024年7月 第1回ワークショップ成果公開
- 2024年9月 1990年代作成の民具旧台帳公開
第2回町民参加ワークショップ実施



弥平民具のモデル事業を終えて

- DAを用いた資料整理の試行錯誤のスタート事例
 - DAでの資料整理状況の公開
 - DAを用いたワークショップの場での資料情報の登録
- 今後さらに方法としての洗練が必要
 - 準備過程の省力化
 - 利用者の多様なリテラシーへの対応
 - 他町村への拡大実施
- 詳細は11月30日（土）第29回情報知識学フォーラムで発表予定